



北海道サケネットワーク
ニュースレター 40



2013. 11. 24

北海道サケネットワーク総会

去る11月2日、札幌市エル・プラザにおいて北海道サケネットワークの総会が開催されました。総会では2013年度の活動報告、2012年度決算報告と2013年度予算執行状況等の報告が行なわれ、全て承認されました。その後、各会員が行なってきた行事について紹介がありましたので、以下に概略を記します。

【さけます内水面水産試験場】北海道におけるサケの回帰状況に関する調査報告。今のところ予想に反して好調。H22年のレベルまで回復。高齢魚の比率が高い。

【北海道区水産研究所】三陸の復興状況に関する報告。岩手県はほぼ終了、宮城県と福島県は遅れ気味で、H27年が復興の目処。今後も全面的に支援して参る。

【豊平川さけ科学館】札幌近郊の河川におけるサケ親魚の遡上調査報告。札幌では瑞穂大橋付近が最も観察し易い。一般市民向けサーモンウォッチングを予定。

【サクラマスサンクチュアリーセンター】森と川と海の繋がりについて継続した調査を実施。地元の方々にも理解が深まり、来館者数が増加。

【東白石小学校】20年以上に亘って行なってきた“サケ学習会”が評価され、本として出版される。次期の理科の教科書にも取り上げられる予定。

【とがち・帯広サケの会】10月27日、ボランティアとしてサケの人工受精をお手伝い。命の尊さを学びつつ、最後は使った魚の“ちゃんちゃん焼”に舌鼓。

【大雪と石狩の自然を守る会】石狩川上流域で放流してきたサケ稚魚が親となって順調に回帰。それにもなって“あさひかわサケの会”と“サケ案内人”が誕生。

【サーモン協会】豊平川さけ科学館の行事への協力、夏休み親子サケ教室、公開市民講座、カナダ訪問団の受け入れ(小中学生のホームステイ)等の報告。

【標津漁業協同組合】自然産卵の重要性を再認識し、産卵床調査等を実施。

【岩手大学】釜石市に“三陸水産研究センター”を設立。三陸のサケの回帰状況を調査中。遡上にピークがない状況が続いている。今後の動向に注目。

【丸水札幌中央水産】さけます類の需給動向について報告。現在、消費者の嗜好は脂質の多い養殖トラウト、ギンザケが大きなシェア。日本系サケの販売を推進。

2013年度 北海道サーモン協会サケ会議

総会に続き、以下の講師による講演と意見交換が行なわれました。

「生物多様性がささえる森・川・海をつながり」河村 博(積丹町サンクチュアリー)

「サケを通してみた豊平川の河川環境」有賀 望(豊平川さけ科学館)

「魚の気持ちを川の形に」妹尾優二(流域生態研究所)

両会議とも、詳しい内容は後日発行されるネットワークの会報をご覧ください。

サケネットワーク事務局